

## 豊かな心と未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくりの実現を目指して

全国公立学校教頭会研究部長

松井良彰

全国公立学校教頭会は、政策提言能力を備えた職能研修団体として、全国の副校長・教頭の専門性の向上を目指して活動しています。その根幹となる活動の一つが副校長・教頭による研究活動です。

副校長・教頭が学校の要として学校運営を図る中で、学校現場で役立つ実効性のある実践的な研究を目指し、全国統一研究主題を設定してまいりました。さらに、全国共通研究課題として、「教育課程」「子供の発達」「教育環境整備」「組織・運営」「教職員の専門性」「副校長・教頭の職務内容や職務機能」の点から、「自立・協働・創造」をキーワードに「継続性」(Continuity)、「協働性」(Collaboration)、「関与性」(Commitment)の3Cに焦点を当て、その成果や課題を共有・深化させ研究を進めてきました。

第12期全国統一研究主題は、「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」です。キーワードは、自立・協働・創造です。今年度は、第12期の2年目となります。

現在、超スマート社会の実現に向け、AIやビッグデータの活用など、技術革新が急速に進んでいます。さらに、グローバル化や少子高齢化をはじめとして、社会経済的な課題など解決の難しい課題が山積しています。このような状況の中で、人々が豊かな人生を生きるために教育の果たすべき役割はますます大きなものになることを実感いたします。

研究主題の「未来を生きる力」とは、子供たちが時代の進展・変化に的確に対応する「生きる力」であり、自ら積極的に未来を創造していく意欲を持ち行動する「生きる力」であると考えます。人との絆を大事にし、自分の個性を生かしながら自ら考え行動し、他者と協働しながら、現状を乗り越えていく力、リーダーシップやチームワークを発揮し、新しい価値を生み出す、未来を拓く資質や能力を育成しけるよう取り組んでいきたいと思っております。さらに、「魅力ある学校づくり」とは、学習指導要領の前文にあるように、「よりよい学校を通して、よりよい社会を創る」という理念を受け、社会に開かれた教育課程の実現に向けて、副校長・教頭として取り組むべき課題であると考えております。

今回の佐賀大会では、「志を高くもち 豊かな心と未来を切り拓く力を育む 学校づくりの推進」がサブテーマとして設定されています。

未来を予測することが困難で変化の激しい社会にあっても、子供たちが夢や目標を持ち続け、その実現のために取り組む志を高くもち、自らの力で未来を切り拓く力、さらに、他者を尊重し、ともに協働することのできる豊かな心を育てていくことが不可欠の課題であると考えます。そして、その課題に対して、保護者、地域と連携・協働を図った「地域とともにある学校」を目指すことが魅力ある学校づくりにつながるのではないのでしょうか。

佐賀大会は新型コロナウイルス感染症の影響により、「オンライン開催」という形になりました。このような形式は全国公立学校教頭会研究大会としては初めての取組となります。この研究大会に向け、長い時間と多大な労力をかけて準備された佐賀大会実行委員長をはじめ実行委員会の皆様の尽力に最大限の敬意を表します。この大会が「新しい生活様式」にもとづく、全国研究大会の新たな歴史となっていくのではないかと考えております。

末筆になりますが、佐賀県公立学校教頭会、全国の単位教頭会・副校長会、関係諸団体の皆様、さらに所属校の校長先生、教職員の皆様のご理解、ご協力に深く感謝申し上げます。